

平成 30 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業
ユネスコスクール年次報告書及び活動調査

平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書及び活動調査 留意事項

1.全体の留意事項

- ✓ 年次報告書の様式が昨年度以前と異なりますので、御留意ください。(学校現場の負担軽減、及び活動内容のよりの確な把握の観点から、様式を変更しました。また、今年度から年次活動報告書と年次活動調査を同時に実施しています。)
- ✓ 本様式は下書き用として活用ください(紙媒体での提出義務はありません)。
- ✓ 報告書については、本様式の内容を Web 上(<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>)に掲載いただいた時点で、提出済と判断されます。昨年度までの提出方法とは異なりますので、ご注意ください。
- ✓ 当報告書(p.2-4)及び「ユネスコスクール認定・解除について(p.5-6)」については必ずご提出ください。
- ✓ 当報告書(pp.2-4)部分はユネスコスクールホームページに掲載し公開情報となりますが、「ユネスコスクール認定・解除について(pp.5-6)」及び「年次活動調査(p.7以降)」については非公開となります。

2.様式についての留意事項

- ✓ 記述回答全般について、単なる活動の羅列に留まらず、どのような理念に基づき、ユネスコスクール及びESDをどのように捉え、何を目標としたか(児童・生徒の育みたい力など)等、なるべく具体的に記入ください。
- ✓ 記入欄は適宜広げて記入いただいて構いません。
- ✓ SDGsやGAPなど国際的な枠組みを意識して活動を行った場合は具体的に記入ください。また、ユネスコが提案する国際協働プロジェクト、コンテスト、キャンペーンへの参加、もしくはそれらと関連した国内(地域)での活動を実施した場合、その実績を記入ください。また、国連の記念日(特にユネスコの定める国際デー)に関連した取組を行った場合はその実績を記入ください。

(参考)国際デー(国連広報センターHP)

http://www.unic.or.jp/activities/international_observances/days/

- ✓ 校種の性質上、記入が困難な項目はその旨記入の上割愛いただいても結構です。

平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書

◆報告期間：平成 30 年 4 月～平成 30 年 11 月

※ 報告書提出時点～平成 31 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

◆「平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書（pp 2～4）」まではユネスコスクール公式ウェブサイト（<http://www.unesco-school.mext.go.jp/schoolslist/annualreport3/>）上に転記・掲載ください。掲載方法については同サイトをご覧ください。

◆現在、各校ページ（「加盟校情報」）内にご記入いただいている内容は、加盟校情報の項目の改良にあたり 12 月 1 日時点で削除いたしますのでご了承ください。

1. 学校に関する基本情報

学校名 静岡県伊豆市立天城中学校（※正式名称を記載）

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒410-3215

静岡県伊豆市月ヶ瀬 8 5 3 番地

E-mail(代表アドレス) a-jhs@school.city.izu.shizuoka.jp

※ご担当者ご異動後も連絡可能なメールアドレスのご記入を推奨しております。

Website http://atjs.city.izu.shizuoka.jp/

ユネスコスクール加盟年 2010年

2. 活動内容

※ 記入にあたっては、留意事項を確認ください。



① 活動分野（複数選択可）

- 環境 エネルギー 防災 生物多様性
- 気候変動 国際理解 世界遺産や地域遺産等
- 人権・平和 健康・福祉 食育
- 持続可能な生産と消費 貧困 エコパーク^{※1}
- ジオパーク^{※2} グローバル・シチズンシップ教育（GCED）^{※3}
- その他

※1 生態系の保全と持続可能な利活用の調和と目的とした、ユネスコの事業。生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）

※2 地質学的遺産を保護し、持続可能な経済開発の場とすることを旨としたユネスコの国際ネットワーク事業

※3 地球市民教育、世界市民教育などとも称される

② 活動の概要（800字程度）

【天城学習に係る活動】

本校は、「ふるさと伊豆を多角的な視点で学び、伊豆が直面している課題を知るとともに、地域を活性化させ、持続可能な地域づくりのあり方を考える」を活動テーマとして、ESDを「持続可能な地域づくりを担う人材の育成と地域への提言のための教育」の基盤と捉え、ESDの実践を通して「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーション力」「他者と協力する態度」の育成を目標とした。

具体的には、「共に生きる」「地域のよさを知る」「地域に根ざした生き方を考える」「地域を持続可能にするためのヒントを見つける」「地域を持続可能にするための提言」を柱に、①福祉体験学習、②自然体験学習Ⅰ、③自然体験学習Ⅱ（防災の視点を加えて）、④職場体験学習、⑤修学旅行、⑥地域学習を行った。

① 福祉体験学習

地域の福祉施設での体験を通して思いやりの心を育み、福祉の問題を自らの問題として受け止めるとともに、地域の一員として共に生きることの意味を深く考え、行動力につなげることをねらいとしている。具体的には、「高齢者疑似体験」「認知症サポート講座」「盲導犬について」「手話」の4つの事前講演を経て、市内の7つの施設を訪問し、様々な交流や体験を行った。

② 自然体験学習Ⅰ

天城山の自然の豊かさを体感し、ふるさと伊豆を愛する心を育むことをねらいとしている。1日目は、伊豆ジオパーク推進協議会より講師を招聘し、午前中は伊豆半島ジオパークミュージアムの見学、「旭滝」「船原スコリア丘」などの火山地形を観察し、天城の成

り立ちを学んだ。また、午後には火山の噴火実験を行い、その仕組みや構造について学習した。2日目には、天城自然ガイドクラブの協力を得て、天城山の「八丁池」までハイキングを行い、天城の自然の豊かさを体感した。

③ 自然体験学習Ⅱ（防災の視点を加えて）

伊豆の自然のすばらしさと伊豆が抱える問題について理解し、地域防災の視点を加えて地域が持続していくための方法を考えることをねらいとしている。事前学習として、伊豆半島ジオパーク推進協議会職員による天城地区「荒原」の棚田見学や、天城自然ガイドクラブの皆様による「天城の自然・皮子平について」の講話を行った。さらに、伊豆市防災安全課職員による防災講話を実施した。1日目は、天城山「皮子平」へのハイキングを行い、天城の豊かな自然を体感するとともに、鹿の食害による森林被害を目の当たりにし、大きな課題があることに気づいた。2日目は、市赤十字奉仕団による炊き出し訓練、市防災安全課による避難所設営訓練、国土交通省沼津河川国道事務所による土砂災害訓練、田方南消防署による消火・心肺蘇生・被災者運搬訓練などの体験を通して、地域防災のあり方について学んだ。また、「ふじのくにジュニア防災士」の資格取得をめざし、静岡県東部地域局より講師を招聘し、災害時判断ゲーム（クロスロード）に取り組んだ。

④ 職場体験学習

地域に根ざした仕事を体験することを通して、持続可能な地域にしていくためにさまざまな分野で工夫や苦労を重ねている人々の存在を知り、自己の生き方や将来の生活について関心・意欲を高めることをねらいとしている。旅館、サービス業、病院、製造業、販売業、こども園、消防署、FM局等、地元の事業所にお世話になり、「地域に根ざした仕事を持続していくためにどのような工夫をしているのか」について学習した。

⑤ 修学旅行

スローガン「時を超え、歴史を見つめ、今を知る～今しかないこの瞬間を～」のもと、観光都市として古都の魅力を発信し続けている奈良・京都の魅力を探ることをねらいとしている。「自然」「特産品」「伝統工芸」「食」「観光」「環境」など、関心のあるテーマの中から、地域の課題を明らかにするべく個々の課題を設定し、追求活動を行った。

⑥ 地域学習

地域を活性化させ、持続可能な地域づくりのための自分（たち）なりの解決策を見つけ、行動することをねらいとしている。個人またはグループで課題を設定し、地域に出向いてインタビューや調査活動を行い、整理してまとめた。今年度は、①「町並みを変えていこう」②「天城マップをつくろう」③「東京オリ・パラに向けて」④「天城の自然の食材」⑤「天城の妖怪・神社マップ」⑥「伊豆の特産品を使ったスイーツ」⑦「伊豆市の予算と利用」⑧「ゴミから考える天城の環境」⑨「伊豆市と京都の比較」⑩「天城の観光地としての活性化」⑪「伊豆市の観光案内を工夫する」⑫「天城のPR動画をつくる」⑬「天城の食材を知り、よさを広める」⑭「ご当地ソングをつくり、天城を盛り上げよう」の14課題に取り組んだ。

【その他の活動】

- ・筑波大学附属中学校との交流 ※平成 30 年 5 月 9 日
- ・「世界一大きな授業」の実施 ※平成 30 年 6 月 14 日
- ・ACCU教職員韓国派遣事業への参加 ※平成 30 年 7 月 9 日～16 日
- ・香港瑪利曼小学校との交流 ※平成 30 年 11 月 13 日
- ・第 50 回 全国環境教育研究大会への参加 ※平成 30 年 11 月 30 日

③ 平成 31 年度の活動計画 (200～400 字程度)**【ESDを基盤とした「天城学習」のねらい】**

次年度も、「ふるさと伊豆を多角的な視点で学び、伊豆が直面している課題を知るとともに、地域を活性化させ、持続可能な地域づくりのあり方を考える」を活動テーマとする。

「持続可能な地域づくりを担う人材の育成と地域への提言のための教育」を活動の根幹に据え、ESDの実践を通して「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーション力」「他者と協力する態度」の3つの資質・能力の育成をめざす。

【学習活動】 ※3年間の学びを6つのユニットで構成

(1年)

ユニット1 福祉体験学習 (共に生きる)

ユニット2 自然体験学習Ⅰ (地域のよさを知る)

(2年)

ユニット3 自然体験学習Ⅱ (地域の課題を見つける)

ユニット4 職場体験学習 (地域に根ざした生き方)

(3年)

ユニット5 修学旅行 (持続可能になるためのヒントを見つける)

ユニット6 地域学習 (持続可能になるための提言)

【発表会】

「天城学習発表会」の開催案内を広く配付し、さまざまな立場の方に提言を届ける。